

平成30年度 燕市一般会計(普通会計)決算の概要

【決算額内訳】

区 分	平成29年度	平成30年度	比 較	主 要 因
歳 入	346億7,324万9千円	351億6,243万円	4億8,918万1千円	【歳入】 国庫支出金 ▲5億4,741万8千円 県支出金 ▲2億4,068万2千円 地方交付税 +1億4,616万4千円 寄 附 金 +7億2,128万7千円 市 債 +4億2,670万円
歳 出	338億6,971万3千円	344億7,322万9千円	6億 351万6千円	
形式収支	8億 353万6千円	6億8,920万1千円	▲1億1,433万5千円	
翌年度繰越財源	1億 512万4千円	1億2,463万5千円	1,951万1千円	
実質収支(繰越金)	6億9,841万2千円	5億6,456万6千円	▲1億3,384万6千円	【歳出】 扶 助 費 ▲2億8,100万円 物 件 費 ▲2億4,130万9千円 普通建設事業費 +4億5,875万円 積 立 金 +6億7,512万9千円 公 債 費 +3億2,922万9千円
単年度収支	9,470万1千円	▲1億3,384万6千円	▲2億2,854万7千円	
積立金+繰上償還	5億1,902万5千円	10億4,651万8千円	5億2,749万3千円	
積立金取崩額	13億9,235万5千円	7億9,130万1千円	▲6億 105万4千円	
実質単年度収支	▲7億7,862万9千円	1億2,137万1千円	9億円	
財政調整基金残高	24億6,535万8千円	27億2,057万5千円	2億5,521万7千円	

平成30年度一般会計(普通会計)決算は、歳入が前年度比4億8,918万1千円増で351億6,243万円、歳出が前年度比6億351万6千円増で344億7,322万9千円となりました。形式収支から翌年度繰越財源及び前年度繰越金を除いた単年度収支では1億3,384万6千円のマイナスとなっていますが、単年度収支に実質的な黒字要素(財政調整基金積立金+地方債繰上償還額)と赤字要素(財政調整基金の取崩し額)を差し引きした実質単年度収支は9億円のプラスとなりました。

財政調整基金残高は、前年度末から2億5,521万7千円増の27億2,057万5千円となっています。

【平成30年度決算のポイント】

歳入では、地方消費税交付金、普通交付税及び市税等の経常一般財源が前年度比で増加しています。歳出では、公債費が増加していますが、近年増加傾向が続いている扶助費(臨時福祉給付金の皆減等)、物件費(H29豪雪の平常化による減)及び繰出金(公共下水道事業繰出金の減)等が減少しています。結果、経常収支比率は90.5%となり、平成29年度の91.0%と比較して0.5ポイント改善しています。

また、普通交付税等の一般財源総額の増加に伴い、財政調整基金の積立金が増加、繰入金が増加しており、単年度収支はマイナスとなっていますが実質単年度収支は改善しています。

【令和元年度以降の財政動向】

①財政調整基金残高の減少 ⇒ 令和元年度4号補正後残高 20億9,222万4千円

②依存財源の減少

・普通交付税の合併算定替段階的縮減 H28 ▲10%(6,326万円) ⇒ H29 ▲30%(1億5,770万2千円)
⇒ H30 ▲50%(2億5,171万6千円) ⇒ R01 ▲70%(3億6,382万5千円) ⇒ R02 ▲90%

③公債費の増加 ⇒ 令和4年度まで増加が続き、今後の地方債借入規模次第ではピークとなる年度が先送り